

## 令和7年度 総合教育会議 会議録

- 1 と き 令和7年9月24日（水）14:30～16:00
- 2 ところ 大垣市役所4階 市長公室1
- 3 出席者 石田仁市長、豊田富士人副市長、細江敦教育長、  
河合保孝教育委員、堀哲也教育委員、沼口諭教育委員、松岡敦子教育委員
- 4 事務局 篠田企画部長、藤埴地域創生戦略課長、馬淵教育委員会事務局長、  
吉田庶務課長、洞口社会教育スポーツ課長、細野社会教育スポーツ課参事
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 部活動の地域展開について

### 7 会議録

| 発言者         | 発言概要  |
|-------------|---|
| 石田 市長       | 令和7年度大垣市総合教育会議を開催し、今年度の議題である部活動の地域展開について教育委員の皆様と意見交換を行います。<br>事務局からの説明をお願いします。  |
| プレゼンテーション説明 | 大垣市の部活動地域展開について、実証事業として2年間、地域展開に向けて取り組み、現在に至ります。<br>全国では37%しか地域展開できていない中、大垣市は着実に進展しており、令和7年9月現在で運動系・文化系合わせて約70%が地域クラブとなりました。<br>今後は地域全体で支える体制づくりのため、企業や大学と連携した「地域クラブ応援プロジェクト」を立ち上げ、指導者派遣、活動場所提供、運営支援等の協力を求めています。<br>また、今後はクラウドファンディングも実施予定です。 |
| 石田 市長       | それでは、教育委員の皆様から、ご意見を頂戴したいと思います。  |
| 委員          | 3年間の取り組みはここまでよくやっていただけており、成果を上げていると評価します。<br>地域展開の最大の課題は指導員の確保と活動資金であると考えてい   |

| 発言者   | 発言概要  |
|-------|---|
|       | <p>ます。部活動は教育の一環であり、地域クラブが塾化しないよう、また指導者の質も大切にしながら進める必要があります。先生が子どもたちを見るのが一番だと考えており、働き方改革で手を放していくことには複雑な思いもありますが、企業との連携には限界があり、謝金支払いをしてでも、小中の先生方をはじめ指導員を引き受けてくれる教員の確保が必要です。</p> <p>岐阜協立大学では経済学部よりもスポーツ学科が定員オーバーしており、こうした事象からも地域の大学との連携を深め、体育の先生を増やして指導に当たってもらうことが重要です。また、クラブの収支等をしっかり管理把握し、5000円の負担金をもらうだけでもらって活動に参加しないといった事態を防ぐ資金管理体制の整備や、選手だけでなくマネージャーも評価されるような支援も重要であると考えます。</p> <p>気が付いたら県内でもトップを走っている状況にあり、これからも1番で走ってもらいたいと期待しています。</p> |
| 石田 市長 | <p>指導者確保の仕組み作りが重要です。各企業の協力可能な内容をリスト化し、連携を深めていく所存です。</p>   |
| 委員    | <p>地元企業にこだわらず、広域事業展開している企業や団体にも賛助をお願いし、地域クラブ支援事業なども活用しながら、共通のプラットフォーム作りやクラブのマネジメント・全体をコーディネートする組織の設置が必要であると考えます。</p> <p>教員の負担軽減が目的だが、企業も人手不足の状況にあり、教員の役割を社会人に置き換えるだけでは根本的な問題は同じです。企業が指導者を派遣する際の立場（ボランティアか仕事か）を明確にし、色々な立場の方の意見を聞いてガイドラインを作成しながら理解を得て進める必要があります。</p> <p>地域展開は従来の部活動を見直し再構築する良いチャンスであり、楽しさを重視するのか競技志向を強めるのか、目指す方向性を明確にして体制を再構築する機会であると考えます。</p>  |
| 石田 市長 | <p>レクリエーション志向と競技志向の両方に対応できる体制を整備したいと考えます。</p>   |
| 委員    | <p>早期100%を目指す取り組みは評価します。進めることで初めて見える問題もあるため、問題点を継続的に見直すことが大事だと考えま</p>   |

| 発言者     | 発言概要   |
|---------|--|
|         | <p>す。</p> <p>部活動の良さとクラブの専門性、両方をハイブリッド化することが重要です。</p> <p>休日は地域展開を進めても良いが、平日は急ぐ必要はないと考えます。</p> <p>また、市民全体で支える雰囲気醸成が必要で、お金だけでなく地域で支える気持ちをつくることが大切です。人口減少社会の中では、共生社会の実現が不可欠で、例えば、障がいのある方々とも協働して社会生活を維持・形成していかなければなりません。部活動の地域展開においても、様々な場面で力を借りなければならないと思っています。全ての児童生徒が社会人となっても、いろいろな市民の方から支援を受けることによって、どのような配慮が必要で、どのようなサポートが必要かを学ぶことも大切だと思います。</p> <p>今後の取り組みがインクルーシブな学校運営と社会の実現につながることに期待したいです。</p> |
| 石田 市長   | <p>部活動地域展開に関して、PR不足の課題があります。今後は積極的にPRし、市民の理解と協力を得たいです。</p>   |
| 委員      | <p>全国的に見ても早いペースで進んでいることを評価します。</p> <p>市民の当事者意識を高めるため、子どもたちの生き生きとした活動の姿を広く伝えることが重要です。</p> <p>部活動地域展開において課題となる送り迎えなど、保護者のみならず地域の協力が必要な部分を細分化して様々な人が協力できるように見える化することも必要であります。</p> <p>地域展開により地域への愛着が生まれ、将来地域に還元される好循環も期待できるが、関係者が増える中で、連携体制の整備と教育の一環としての位置づけを明確にすべきだと考えます。</p>   |
| 石田 市長   | <p>地域で子どもたちを育てることがシビックプライド醸成につながるため、多様な方々の協力を得たいと考えます。現在は正念場でありますので、地域クラブをしっかりと作り上げていきたいです。</p>  |
| 馬淵 事務局長 | <p>指導していただいている方もいろいろ検討をしながら活動してくれているので、教育委員会としても引き続きバックアップしながら、地域展開を進めていくことが必要であると考えています。</p>  |
| 細江 教育長  | <p>部活動の教育的価値を尊重し、子どもたちが自分の可能性を発見・</p>  |

| 発言者   | 発言概要   |
|-------|--|
|       | <p>発揮する機会として位置づけたいです。地域展開に関しては、現段階での6つの課題を認識しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平日の部活動のあり方について</li> <li>②文化やスポーツ活動への参加機会の拡充について</li> <li>③地域全体で支える仕組みについて</li> <li>④課題解決の分担について</li> <li>⑤クラブ活動をやらない子への対応について</li> <li>⑥夢を描くことができるアナウンスのしかたについて</li> </ul> <p>休日の地域展開は出口が見えてきたが、これからが本当の山場であります。</p> |
| 石田 市長 | <p>大垣市の部活動地域展開のあるべき姿を市民に発信していきたいです。中学生全員に何らかの活動機会を提供し、既に7-8割が地域展開している実績を基に、さらなる発信を行います。本日の貴重な意見を今後の部活動展開に活かしていきます。</p>   |